



石川労働局発表  
令和3年5月28日(金)

【照会先】

石川労働局労働基準部健康安全課  
健康安全課長 宮野廣之  
労働衛生専門官 山口伸哉  
(電話) 076-265-4424

報道関係者 各位

## STOP! 熱中症 クールワークキャンペーンを展開中

～令和2年の熱中症が増加し依然として高い水準～

石川労働局（局長 よしだけんいち 吉田研一）では、令和2年に石川県内の職場において発生した熱中症の発生状況を取りまとめました。

また、本年も「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場における熱中症の発生予防のための取組について、周知を図ります。

### 1 令和2年における熱中症の発生状況（別添資料1）

- 熱中症の発生は121人（前年106人）、15人（14.1%）の増加。
- 工場内で作業していた労働者が、熱中症により死亡した。

令和2年、熱中症による死亡災害が1件発生しました。

また、業務上で休業4日以上<sup>\*</sup>の熱中症に罹患した労働者は、8人となり、令和元年の11人から3人（27.3%）減少しました。

なお、熱中症により医療機関を受診し、業務上の労働災害として労災補償保険から給付を受けた労働者は、不休の労働者を含め、121人（労災給付データ）となり、前年の106人から15人（14.1%）増加しました。

平成30年に大幅増加となり、3年連続100人超えの高水準となっています。

### 2 令和3年度の取組

令和3年度においても、熱中症による災害ゼロを目指し、職場における熱中症予防対策の徹底を目的とする「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を5月から9月まで（準備期間：4月）展開しており、特に7月を熱中症予防の重点取組期間と位置づけ、WBGT値<sup>※</sup>（暑さ指数）の把握とそれに応じた対策の徹底、休憩設備の整備、暑熱環境下での作業時間の短縮等を実施する

よう指導しています。

熱中症の発症要因は、気温だけではなく、湿度等の作業環境のほか、作業方法、労働者の健康状態等も影響します。

加えて、昨年より新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、マスクの着用など新しい生活様式が求められていることから、これまで熱中症のリスクがさほど高くなかった職場や職種においても注意が必要です。

石川労働局では、関係事業者団体への取組要請を行うとともに、あらゆる機会をとらえ、リーフレット（別添資料2）等を活用し、熱中症を予防するための適切な対策を講ずるよう周知徹底を図ってまいります。

\*WBGT値とは

気温に加え、湿度、風速、輻射（放射）熱を考慮した暑熱環境によるストレスの評価を行う暑さの指数。

### 3 その他

独立行政法人労働者健康安全機構 石川産業保健総合支援センターでは、次の日時に、企業の労務担当者などを対象とした熱中症予防研修会を Web で開催いたします。なお詳細は、同センター（TEL076-265-3888）までお問合せください。

研修名：産業保健研修会

（1部 With コロナ時代の熱中症対策）

（2部 労働衛生行政の動向）

日時：令和3年6月2日（水）13:30～15:30

# 石川県内の職場における熱中症の発生状況

## 1. 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成23～令和2年）

- (1) 全国の死傷者数の推移
- (2) 石川県内における死傷者数の推移

## 2. 石川県の職場における熱中症の発生状況

- (1) 業種別発生状況
- (2) 典型的な災害事例

## 3. 石川労働局第13次労働災害防止計画における熱中症予防対策の現状 （計画期間：2018年度～2022年度（5年間））

- (1) 第13次労働災害防止計画における熱中症予防対策の数値目標
- (2) 第12次労働災害防止計画期間中と第13次労働災害防止計画期間中との比較
- (3) 令和元年と令和2年の状況との比較

参考資料：7月～9月の各日の最高気温と熱中症の死傷者数（令和2年、元年）

**石川労働局労働基準部健康安全課**

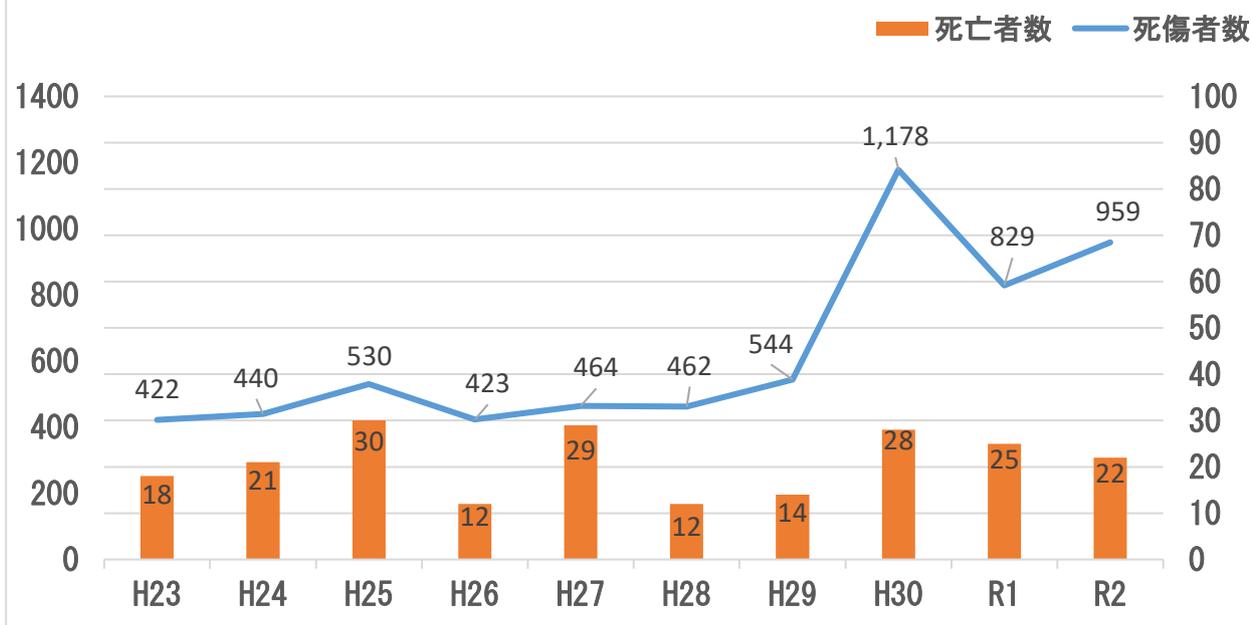
**令和3年5月**

## 1. 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成23～令和2年）

### （1）全国における死傷者数の推移

過去10年間（平成23～令和2年）の職場での熱中症による死亡者及び休業4日以上の業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）をみますと、400～500人台で推移してきましたが、平成30年における死傷者数は1,178名、死亡者数は28名となっており、平成29年と比較して、死傷者数、死亡者数いずれも2倍以上に増加しています。一方、令和2年は、死傷者数が令和元年と比較して130件増加しましたが、死亡者数は3名減少となりました。

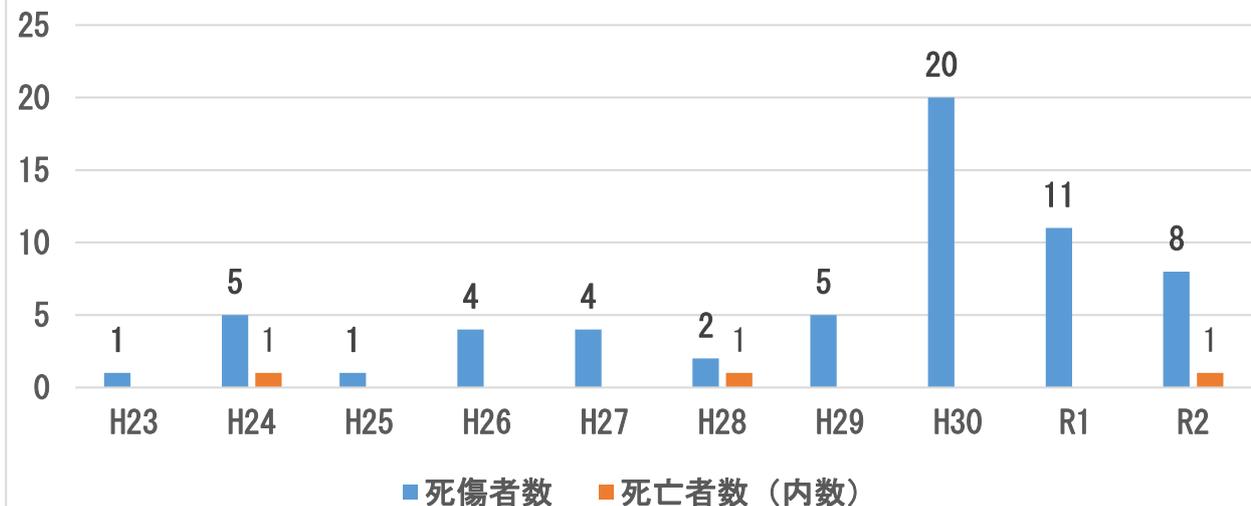
【図1】 職場における熱中症による死傷者数の推移（全国）



### （2）石川県における死傷者数の推移

過去10年間（平成23～令和2年）に3件の熱中症による死亡災害が発生しています。平成30年には、死亡災害こそ発生しておりませんが、死傷者数が20名となっており、平成29年と比較して、死傷者数が4倍に増加しています。一方、令和元年以降は死傷者数が減少していましたが、令和2年に死亡災害が発生しています。

【図2】 職場における熱中症による死傷者数の推移（石川）



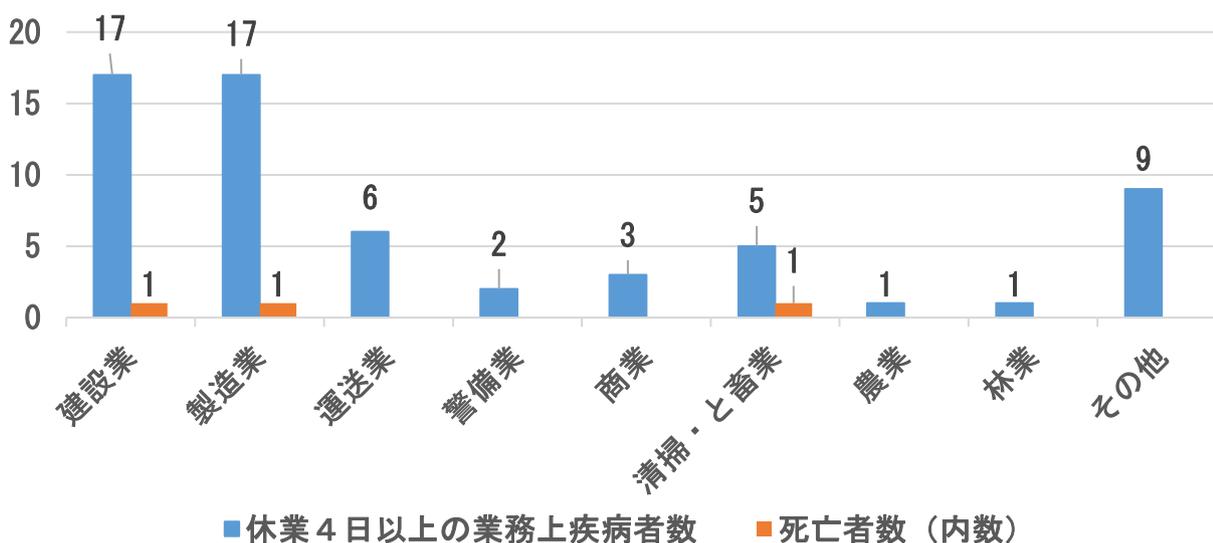
## 2. 石川県の職場における熱中症の発生状況（平成23～令和2年）

### （1）業種別発生状況

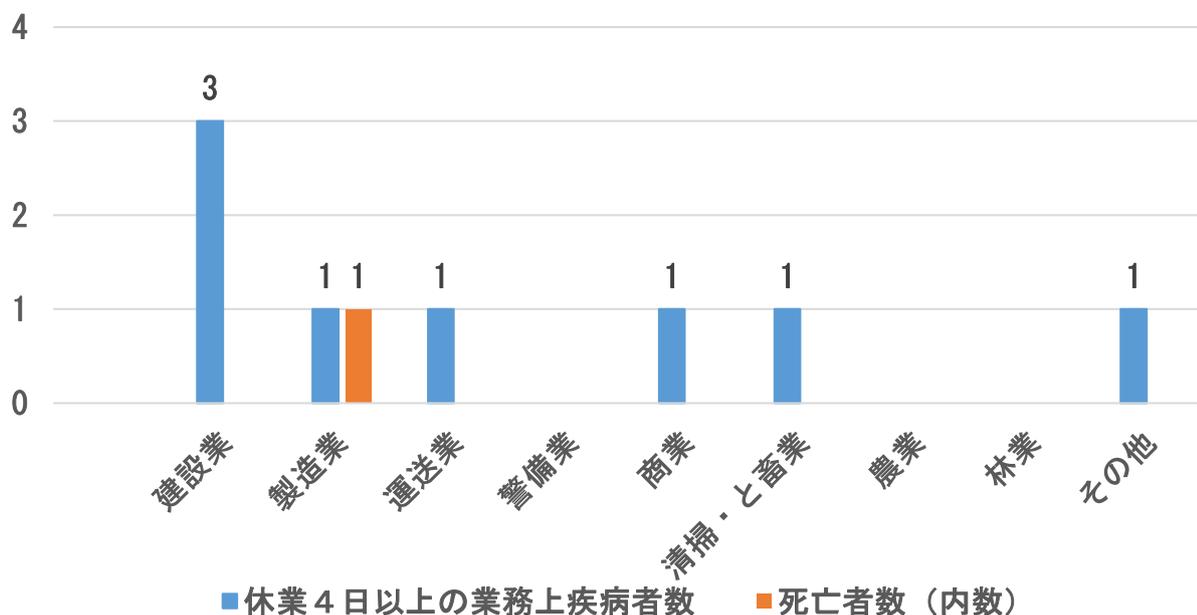
過去10年間（平成23～令和2年）において、死亡者を含めた休業4日以上死傷者数は61名であり、屋外作業者と屋内作業者の割合は約半々です。また、業種別の熱中症による死傷数をみると、建設業と製造業で多く発生しており、全体の5割以上がこれらの業種で発生しています。

熱中症は、これらの業種以外でも運送業、警備業、商業、清掃・と畜業などさまざまな業種においても発生しており、屋内・屋外の作業を有無を問わず、あらゆる業種に熱中症のリスクがあります。

【図3】 熱中症による業種別の状況（平成23～令和2年計）



【図4】 令和2年の業種別熱中症の発生状況



## (2) 典型的な災害事例

平成23年～令和2年の10年間における熱中症による休業4日以上死傷者数は61名であり、そのうち、死亡者は3名で、死亡災害事例及び特徴的な熱中症による災害事例を紹介いたします。

	発生年月	時間帯	年齢	業種	休業日数	発生状況
1	平成24年 8月	17:00	60代	清掃・と畜業 (ビルメンテナンス業)	死亡	鉄筋コンクリート造9階建てビル内の5階トイレで定期清掃に従事していた被災者が、トイレ内で倒れているところを同僚が発見、病院へ搬送されたが死亡した。
2	平成26年 7月	14:00	50代	金属製品製造業	6日	金属加工用機械を用いて、作業中、体調不良を訴え病院で受診した。(水分補給を行っていたが、朝食と昼食を摂っていなかった。)
3	平成27年 8月	7:00	50代	道路貨物運送業	3週間	荷卸し後、取引先の構内でエンジンを切り、待機中に体調が急に悪化しトイレに行ったが、意識が朦朧となり、倒れているところを同僚が発見し、救急車で病院へ搬送された。
4	平成28年 8月	12:00	40代	建設業	死亡	舗装工事において、アスファルトを同僚1名と共に切断する作業を行い、正午前に作業が終了し、後片付けをしていたところ、気分が悪くなり倒れこんだ。病院へ搬送されたが死亡した。
5	平成30年 7月	15:30	30代	電気機械器具製造業	6日	倉庫内で、パソコンを用いて、立ちながら伝票発行作業を行っていた際、倉庫内が高温であったため、熱中症を発症した。
6	令和元年 7月	11:00	50代	一般機械器具製造業	1ヶ月	倉庫内で、部品の在庫確認中に、熱中症で意識が朦朧として転倒し、その際、床に頭部と胸部を打ちつけ、頭部内出血、肋骨骨折した。(熱中症を原因とした二次災害)
7	令和2年 8月	13:00	50代	パルプ・紙・紙加工品製造業	死亡	工場内で、段ボールケースをパレットに積み込む作業中に、体調が悪くなり病院へ搬送し治療を受けていたが死亡した。冷感マスクを着用していた。

### 【災害発生状況から見る熱中症予防対策】

- ◎ WBGT値（暑さ指数）測定器（JIS規格に適合したもの）により作業場所の作業環境を把握し、作業環境管理として、WBGT値（暑さ指数）の低減対策を講じること。また、作業管理として、作業時間の短縮、水分及び塩分の摂取頻度、服装等の管理を行うこと。
- ◎ 熱への順化の有無が熱中症の発生リスクに大きく影響することから、7日以上かけて熱へのばく露時間を次第に長くすること。なお、夏季休暇等のため、熱へのばく露が中断すると4日後には順化の顕著な喪失が始まるので休暇明け等には熱への順化期間を設けること。
- ◎ 作業場所の近隣に適切な休憩設備を設け、作業員等が容易に水分、塩分の補給ができるよう環境整備を行うこと。
- ◎ 必要に応じて作業開始前や休憩時間中のプレクーリングを検討すること。
- ◎ 熱中症予防対策を職場全体で推進するため、各級管理者に熱中症の予防方法を教育するとともに、労働者に対しても朝食の未摂取・睡眠不足等が熱中症の発症に影響を与えるおそれがあることについて教育を行うこと。

### 【その他の注意事項】

- ◎ 熱中症に起因して、意識を失い倒れた場合には、倒れた場所によっては、骨折等の外傷を負うこともあります。
- ◎ 糖尿病、高血圧症、心疾患等の基礎疾患がある労働者の業務の配置については、医師の意見を確認しましょう。

(注) 熱中症予防対策については、令和3年「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱を確認してください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000642212.pdf>

### 3. 石川労働局第13次労働災害防止計画における熱中症予防対策の状況 計画期間：2018年度～2022年度（5年間）

(1) 第13次労働災害防止計画における熱中症予防対策の数値目標

石川労働局においては、第13次労働災害防止計画（以下「13次防」という。）では、「職場での熱中症による労働災害（休業4日未満を含む）の死傷者数について、第12次労働災害防止計画（以下「12次防」という。）期間中（2012年から2017年まで）と比較して、13次防期間中の合計値を5%以上減少させる。」という数値目標を設定しています。

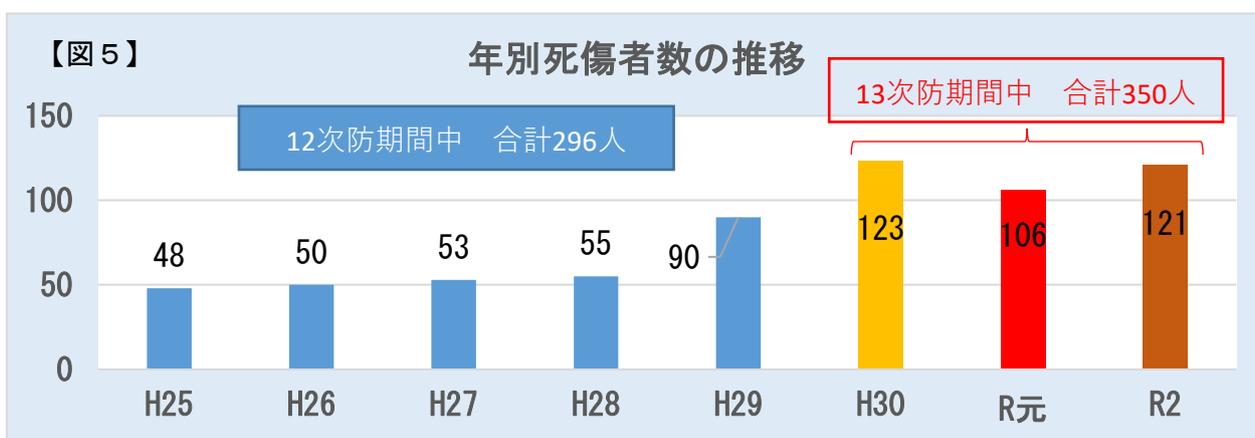
**12次防期間中の死傷者数296人 → 13次防期間中の死傷者数281人以下に！**

（注）計画期間中の対象となる被災者数については、労働者災害補償保険法に基づく休業補償給付（休業4日以上死傷者が対象）を受けた労働者及び療養補償給付を受けた労働者です。

(2) 第12次労働災害防止計画期間中と第13次労働災害防止計画期間中の状況の比較

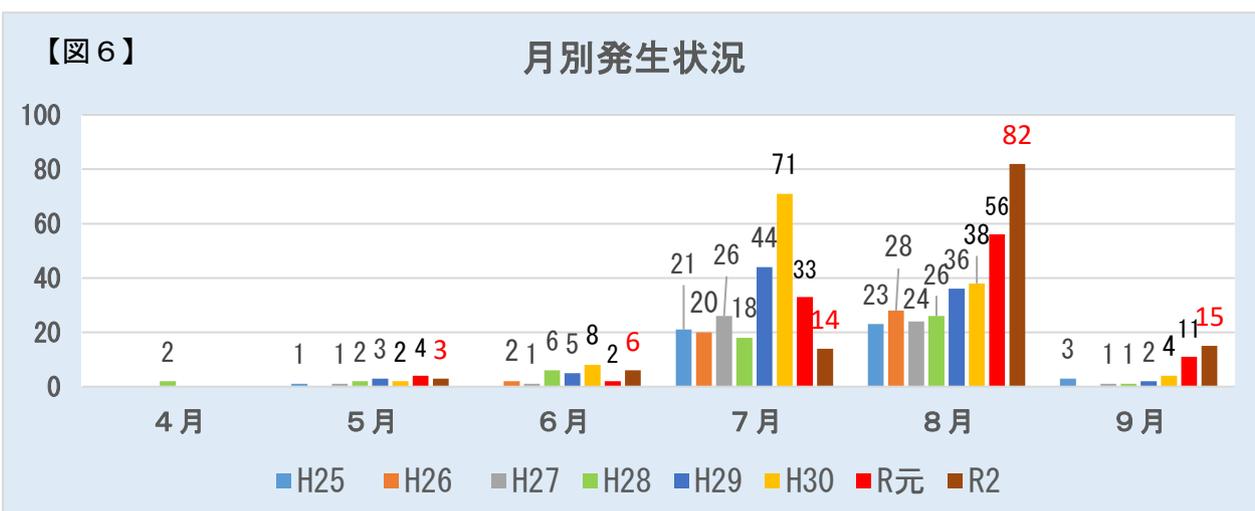
①年別発生状況

平成30年は、夏季の猛暑もあって、熱中症による死傷者数が平成29年の90人から123人に増加しており、令和元年が106人、令和2年が121人と3年連続100人を超える状況にあり、既に13次防の目標を超えています。



②月別発症状況

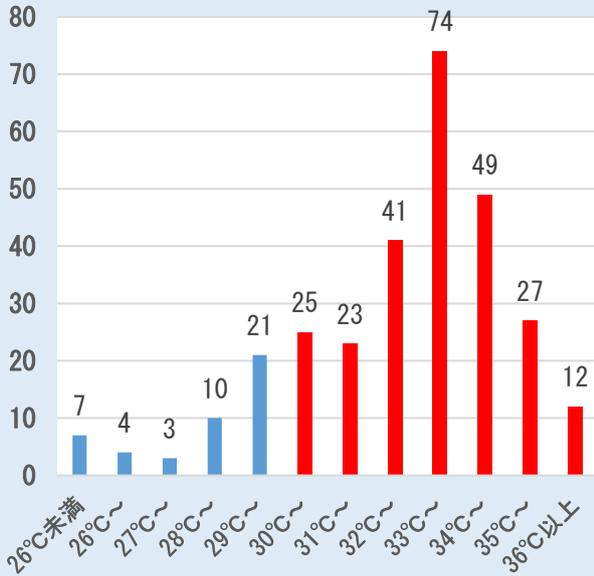
熱中症は、7月、8月に集中しております。特に、令和2年の8月は死傷者数が82人と集中して発生しています。



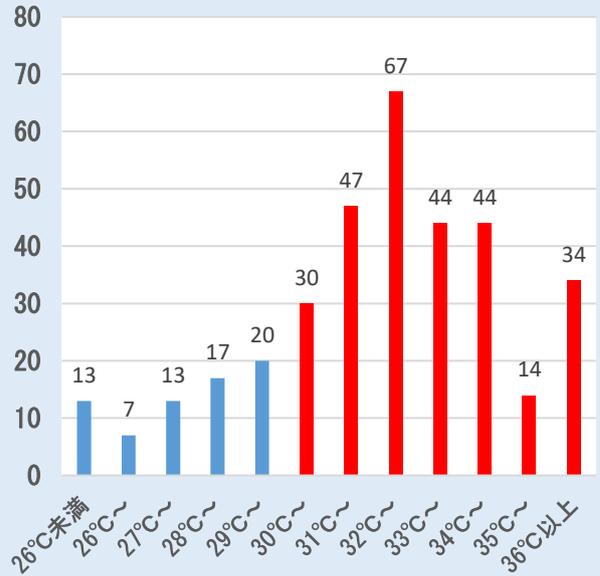
### ③気温による発生状況

12次防期間において、真夏日（最高温度が30℃以上35℃未満）及び猛暑日（最高温度が35℃以上）における熱中症の死傷者は、全死傷者の84.8%でしたが、13次防期間（H30～R2の3年間）では80.0%となり、30℃未満での死傷者数が増加しています。

【図7】12次防期間の気温による発生状況



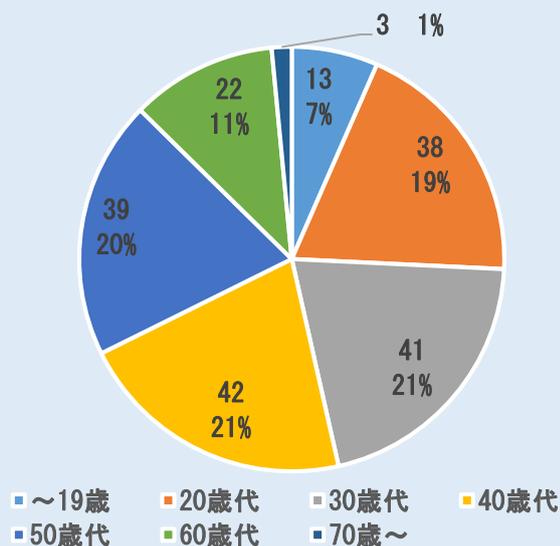
【図8】13次防期間の気温による発生状況



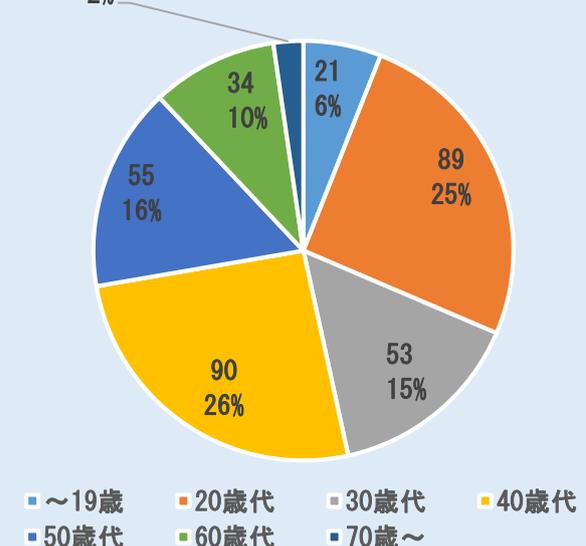
### ④年齢別発症状況

50歳以上の高年齢労働者が被災する割合は、12次防期間及び13次防期間（H30～R2の3年間）においても全死傷者の約30%を占めています。また、若年層（10歳代・20歳代）が被災する割合は12次防期間が全死傷者の26%でしたが、13次防期間では31%に増加しています。熱中症のリスクはどの世代にもありますが、特に、若年層の被災する割合が高くなりつつあります。

【図9】12次防期間の年齢別発生状況  
（※H27～H29 合計198人）



【図10】13次防期間の年齢別発生状況  
（350人）



⑤WBGT値（暑さ指数）から見た発生状況

12次防期間中には、WBGT値の区分における「危険」「嚴重警戒」領域での死傷者が89.5%でしたが、13次防期間中には78.6%となっています。また、12次防期間中は、気温32～35℃・湿度50～75%の領域に死傷者が集中していましたが、13次防期間中は気温30～37℃・湿度55～70%の領域に集中しています。

【12次防期間中（H25～H29の5年間）の発症状況】

【表2】

相対湿度（%）

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40														1			
39																	
38																	
37				1		3		2									
36						5	2	5									
35							5	26	8	2		1					
34							9	10	13	3	14	3	4				
33						1	3	10	16	13	20	4	2				
32							2	4	4	8	5	8					
31							1			3	7	2	3			1	
30			2			1	1	2	2	6	8	3	4	3			
29			1		1		2		1	3	1	1	3	2			
28							1			1							
27					1		1	1		1	1			1			
26								1									
25											1						
24												1					
23					2										1		
22							1										
21																	

危険	151
嚴重警戒	114
警戒	17
注意	14
合計	296

\* 気温、相対湿度は金沢気象台の観測値であり、WBGT値は環境省熱中症予防情報サイトによる。

【13次防期間中（H30～R2の3年間）の発症状況】

【表3】

相対湿度（%）

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40																	
39																	
38							1										
37					1			1		10							
36						1	2	9	9								
35					1		2	2		5	4						
34						3		12	11	4	14						
33						2		10	16	15			1				
32				1	1		5	3	22	20	12	3					
31						2	2	2	7	21	11	1	1				
30			1			2	1	4	2	6	4	7	2	1			
29							1	2	2	7	3	1	1	3			
28				1			1	1	2	4	3	3	2				
27	1			1	1		1		4	2	1	2					
26			1						1	1	2	1		1			
25			1					2		1	1	1					
24											2				1		
23				1						1				1			
22													1				
21																	

危険	105
嚴重警戒	170
警戒	54
注意	21
合計	350

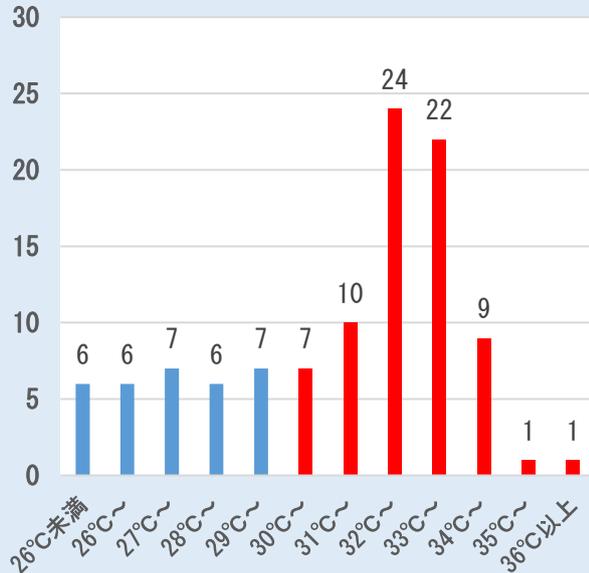
\* 気温、相対湿度は金沢気象台の観測値であり、WBGT値は環境省熱中症予防情報サイトによる。

(3) 令和元年と令和2年の状況の比較

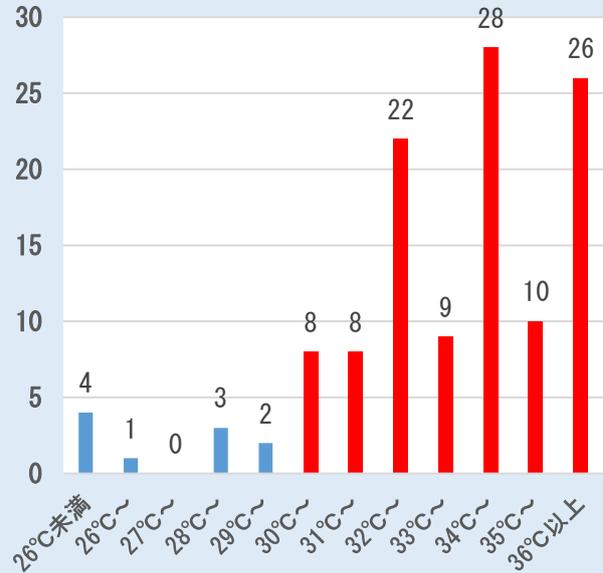
① 気温による発生状況

令和元年において、真夏日（最高温度が30℃以上35℃未満）及び猛暑日（最高温度が35℃以上）における熱中症の死傷者は、全死傷者の69.8%でありましたが、令和2年は91.7%になっています。

【図11】 令和元年の気温による発生状況



【図12】 令和2年の気温による発生状況

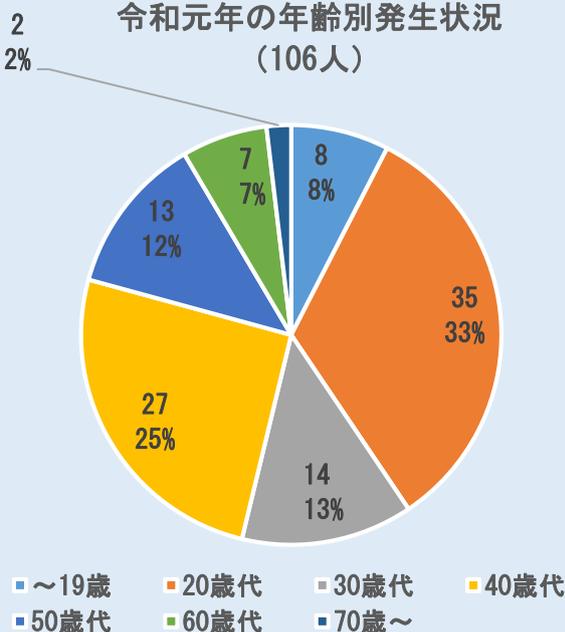


② 年齢別発症状況

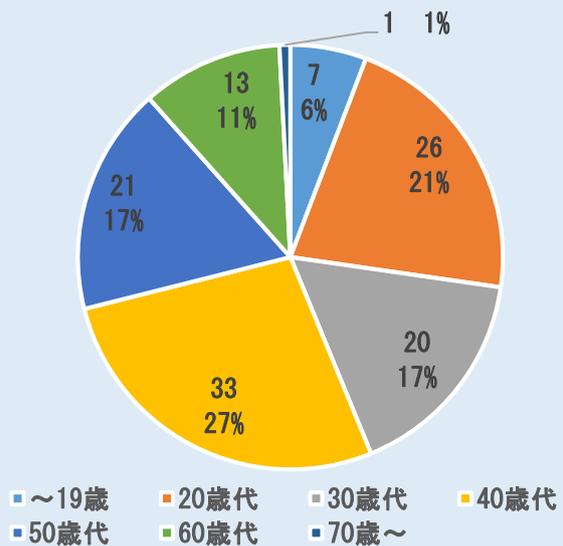
50歳以上の高齢労働者が被災する割合は、令和元年において全死傷者の21%を占めていましたが、令和2年では全死傷者の29%に増加しています。

一方、若年層（10歳代・20歳代）が被災する割合は、令和元年において全死傷者の41%でありましたが、令和2年では全死傷者の27%に減少しています。

【図13】 令和元年の年齢別発生状況 (106人)



【図14】 令和2年の年齢別発生状況 (121人)



### ③WBGT値（暑さ指数）から見た発生状況

令和元年には、WBGT値の区分における「危険」領域での死傷者が23人でしたが、令和2年には73件と増加しています。一方、令和元年は気温31～34℃・湿度55～70%の領域に死傷者が集中していましたが、令和2年は気温32～37℃・湿度55～70%の領域に集中しています。

#### 【令和元年の発症状況】

【表4】

相対湿度 (%)

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40																	
39																	
38																	
37																	
36								1									
35					1												
34								2	2	4	1						
33						1		3	7	10				1			
32							2	2	4	13	2	1					
31								1		5	3	1					
30						1		1	1	1		1	1	1			
29							1	1		1			1	3			
28								1	2	2	1						
27					1		1		3	1	1						
26			1						1	1	2			1			
25			1					2									
24											1			1			
23				1													
22																	
21																	

危険	23
嚴重警戒	52
警戒	21
注意	10
合計	106

\* 気温、相対湿度は金沢気象台の観測値であり、WBGT値は環境省熱中症予防情報サイトによる。

#### 【令和2年の発症状況】

【表5】

相対湿度 (%)

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40																	
39																	
38																	
37											10						
36								8	8								
35								1		5	4						
34								7	8		13						
33									5	4							
32									7	4	9	2					
31							2	1			4		1				
30											1	6	1				
29									1			1					
28												1	2				
27																	
26												1					
25									1		1						
24										1							
23										1							
22																	
21																	

危険	73
嚴重警戒	39
警戒	6
注意	3
合計	121

\* 気温、相対湿度は金沢気象台の観測値であり、WBGT値は環境省熱中症予防情報サイトによる。

## WBGT値（暑さ指数）

・WBGT（Wet-bulb Globe Temperature）値とは

人体の熱収支に影響の大きい「湿度」、「輻射熱」、「気温」の3つを取り入れた指標で、乾球温度、自然湿球温度、黒球温度 の値から算出する数値。

・WBGT値と気温、風速、相対湿度との関係

相対湿度（％） （通常の湿度計で表される湿度）

		20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
気温（℃） （乾球温度）	40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
	37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41
	36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
	35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38
	34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
	33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
	32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
	31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
	30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
	29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	30	31	31	32
	28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
	27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30
	26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
	25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28
	24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27
	23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26
	22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24	

WBGT値（暑さ指数）による危険区分

危 険	31℃以上
嚴重警戒	28～31℃
警 戒	25～28℃
注 意	25℃未満

（注1） この図は、気温と湿度から簡易的にWBGT値を推定するために作成されたものであり、室内で日射が無い状態（黒球温度が乾球温度と等しい）を仮定しており、正確なWBGT値と異なる場合もある。特に屋外においては輻射熱が大きいので注意が必要です。

（注2） 危険、嚴重警戒等の分類は、日常生活における基準であって、労働の場における熱中症予防の基準には必ずしもあてはまらないことに注意が必要であること。

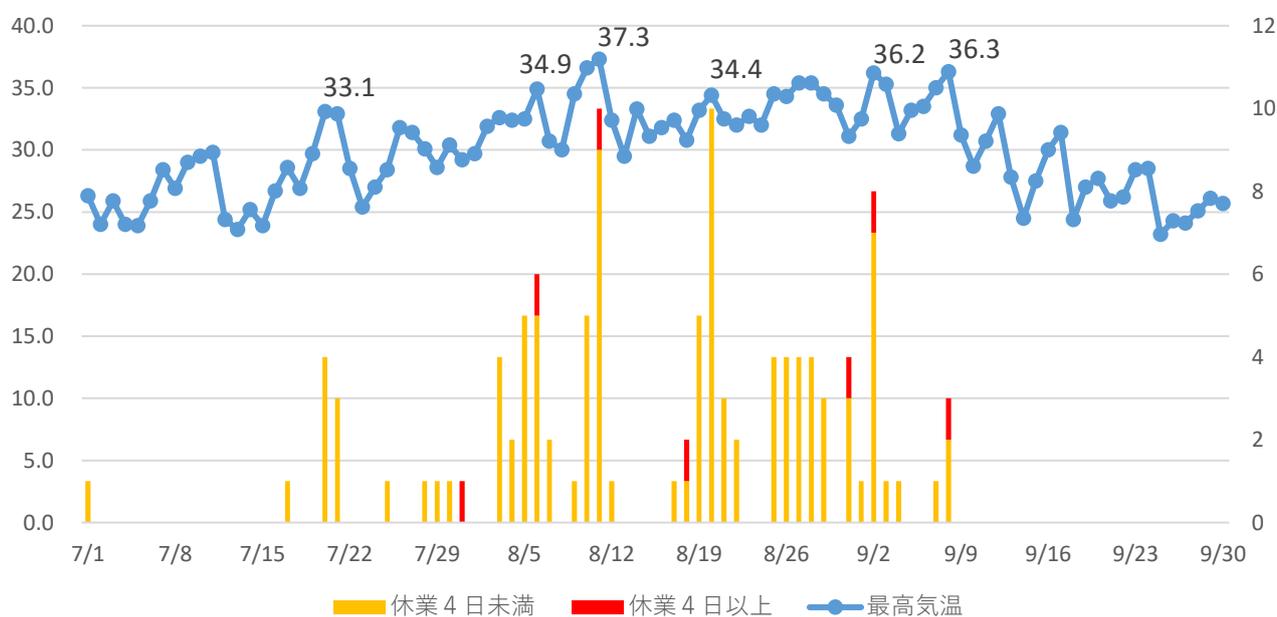
## 7月～9月の各日の最高気温と熱中症の死傷者数（令和2年、令和元年）

令和2年7月～9月の各日の最高気温（金沢气象台発表：最高気温は金沢の観測値）と熱中症の死傷者数を関連付けたところ、7月中旬にかけて最高気温が30℃に達しない時期は熱中症の発生はわずかですが、最高気温が30℃を超えるころから熱中症が増加し始め、8月中旬まで熱中症が頻発しています。特に、最高気温が37.3℃であった8月11日には、死傷者が1日10人となっています。

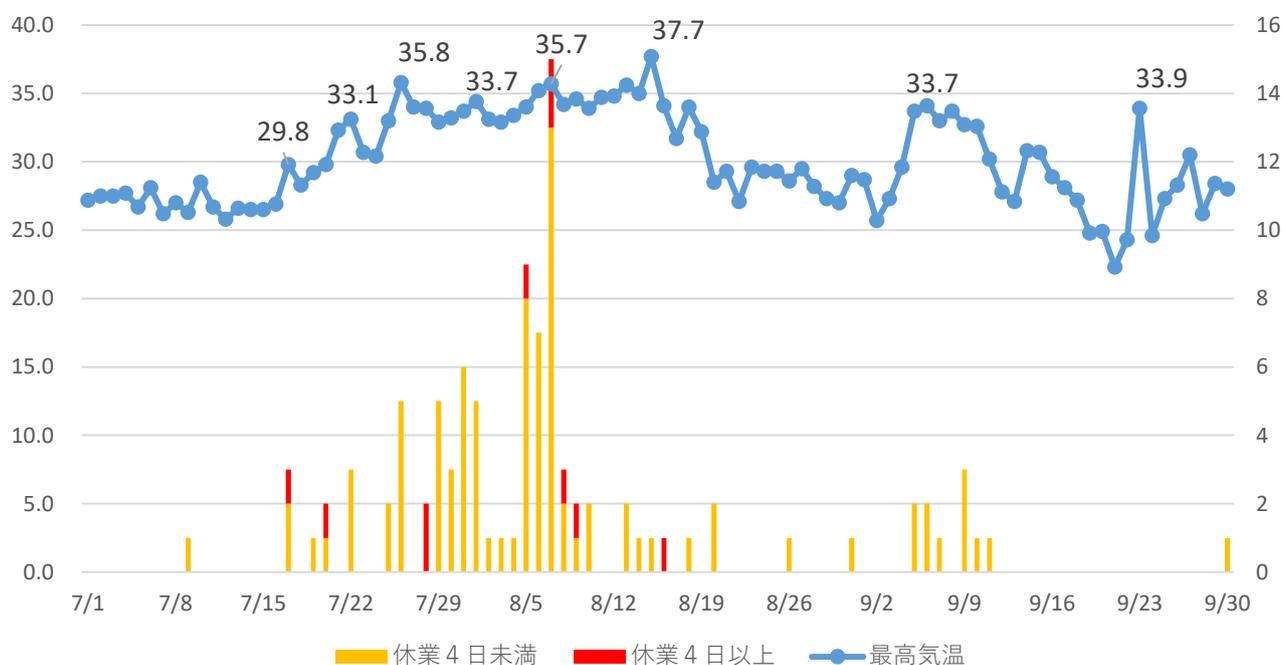
一方、8月のお盆明け以降についても、最高気温が30℃を超える日が続き、特に、最高気温が34.4℃であった8月20日は、死傷者が1日10人となっています。最高気温が30℃を超える9月上旬にかけて熱中症が頻発しています。

急激な気温の変化がある時には、熱中症の発生リスクが高いことに留意する必要があります。

### 令和2年7月～9月の最高気温と熱中症発生状況



### 令和元年7月～9月の最高気温と熱中症発生状況



# STOP! 熱中症

# クールワークキャンペーン

令和3年5月～9月

## — 熱中症予防対策の徹底を図ろう —

職場における熱中症により、毎年約**20人**が亡くなり、約**1,000人**が4日以上仕事を休んでいます。夏季を中心に「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防に取り組みましょう!

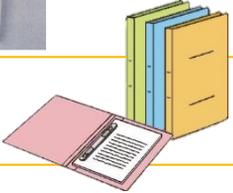
### 事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。

●実施期間：令和3年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



確実に実施できているかを確認し、にチェックを入れましょう!

#### 準備期間（4月1日～4月30日）

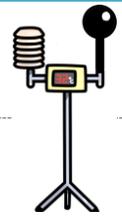
<input type="checkbox"/>	<b>WBGT値の把握の準備</b>	JIS規格「JIS B 7922」に適合した <b>WBGT指数計</b> を準備しましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>作業計画の策定など</b>	WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう <b>余裕を持った作業計画</b> をたてましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>設備対策・休憩場所の確保の検討</b>	簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、 <b>WBGT値を下げる方法</b> を検討しましょう。また、作業場所の近くに <b>冷房</b> を備えた休憩場所や <b>日陰</b> などの涼しい休憩場所を確保しましょう。	 
<input type="checkbox"/>	<b>服装などの検討</b>	<b>通気性の良い作業着</b> を準備しておきましょう。 <b>身体を冷却する機能をもつ服</b> の着用も検討しましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>教育研修の実施</b>	熱中症の防止対策について、 <b>教育</b> を行いましょ。迷わず救急車を呼びましょう!	
<input type="checkbox"/>	<b>労働衛生管理体制の確立</b>	<b>衛生管理者</b> などを中心に、事業場としての <b>管理体制</b> を整え、必要なら <b>熱中症予防管理者の選任</b> も行いましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>緊急時の措置の確認</b>	体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。	

【主催】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）

## STEP 1

### □ WBGT値の把握

JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

## STEP 2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/>	WBGT値を下げるための設備の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。	
<input type="checkbox"/>	休憩場所の整備	休憩場所には氷、冷たいおしぼり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。	
<input type="checkbox"/>	通気性の良い服装など	準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/>	作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 <b>単独作業を控え</b> 、WBGT値に応じて <b>作業の中止、こまめに休憩をとる</b> などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	熱への順化	暑さに慣れるまでの間は <b>十分に休憩を取り、1週間程度かけて徐々に身体を慣らし</b> ましょう。特に、 <b>入職直後</b> や <b>夏季休暇明け</b> の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/>	水分・塩分の摂取	のどが渴いていなくても <b>定期的に水分・塩分</b> を取りましょう。	
<input type="checkbox"/>	プレクーリング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	健康診断結果に基づく措置	<b>①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢</b> などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/>	日常の健康管理など	前日のお酒の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんととったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的症状について説明し、早く気付くことができるようにしましょう。	
<input type="checkbox"/>	労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。	

## STEP 3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡視などにより、次の事項を確認しましょう。

- WBGT値の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか

### □ 異常時の措置

～少しでも異常を感じたら～

- ・ **いったん作業を離れる**
- ・ **病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ**
- ・ **病院へ運ぶまでは一人きりにしない**

## 重点取組期間（7月1日～7月31日）



- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、**作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底**しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取り**ましょう。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- 少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、病院に搬送**しましょう。

